

新薬価制度の実現に向けて (550 文字)

(製薬協ニューズレター2008年3月 124号)

新薬価制度の実現に向けて

特許期間中の薬価維持は、次の新薬を開発するための投資として必要なのである。多く利益を得るといっていい。また医薬品業界として国際競争力をつけることは重要なことであるが、(新しい制度により)日本企業のためだけでなく、海外の企業から見ても研究開発投資の価値が出てくる。こうしてよりよい新薬が出てくる可能性が広がることに期待している。

(薬価制度に関する記者質問に答えて)



日本製薬工業協会(製薬協)

Japan Pharmaceutical Manufacturers Association (JPMA)

製薬協は、病院、診療所などの医療機関で使われる医療用医薬品の研究・開発を通じて世界の人々の健康と福祉の向上に貢献することをめざす、研究開発志向型の製薬会社が加盟する団体で、1968年に設立されました。

製薬協は、「患者中心の医療の実現」に向けて、医薬品に対する理解を深めていただくための活動、ならびに製薬産業の健全な発展のための政策提言などをおこなっています。

製薬協は、国際製薬団体連合会 (IFPMA) の加盟団体として世界の医療・医薬に関わる諸問題に対応し、各団体と連携を図りながら、グローバルな活動を展開しています。